

安全データシート

メタミドホス

改訂日: 2024-01-29 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: メタミドホス
CB番号	: CB3454363
CAS	: 10265-92-6
同義語	: メタミドホス

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 農薬 (有機リン系殺虫殺菌剤) 農薬登録はなく、国内での製造、輸入、使用は禁止されている (食品安全委員会)
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H18.10.23 (環境に対する有害性はH18.3.31)、GHS分類マニュアル(H18.2.10 版)を使用

物理化学的危険性

金属腐食性物質	区分外
有機過氧化物	分類対象外
酸化性固体	区分外
酸化性液体	分類対象外
水反応可燃性化学品	区分外
自己発熱性化学品	区分外
自然発火性固体	区分外
自然発火性液体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
可燃性固体	区分外
引火性液体	分類対象外
高圧ガス	分類対象外

支燃性・酸化性ガス類 分類対象外

可燃性・引火性エアゾール 分類対象外

可燃性・引火性ガス 分類対象外

火薬類 分類対象外

健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 区分2(神経系)

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分2(神経系)

生殖毒性 分類できない

発がん性 分類できない

生殖細胞変異原性 分類できない

皮膚感作性 分類できない

呼吸器感作性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2B

皮膚腐食性・刺激性 区分外

急性毒性(吸入:ミスト) 分類対象外

急性毒性(吸入:粉じん) 区分2

急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(経皮) 区分2

急性毒性(経口) 区分2

環境に対する有害性

水生環境慢性有害性 区分1

水生環境急性有害性 区分1

ラベル要素

絵表示又はシンボル

GHS06	GHS09

注意喚起語

危険

危険有害性情報

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

水生生物に非常に強い毒性

長期又は反復ばく露による神経系の障害のおそれ

神経系の障害のおそれ

眼刺激

吸入すると生命に危険

皮膚に接触すると生命に危険

飲み込むと生命に危険

注意書き

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

【廃棄】

容器を密閉して換気の良い所で保管すること。

施錠して保管すること。

【保管】

吸入した場合、直ちに医師に連絡すること。

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

漏出物は回収すること。

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、又は取り除くこと。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。

【応急措置】

適切な呼吸用保護具を着用すること。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

粉じん、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。

環境への放出を避けること。

適切な保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

眼、皮膚、又は衣類に付けないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

【安全対策】

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	: メタミドホス
別名	: O,S-ジメチル ホスホルアミドチオアート (O,S-Dimethyl phpsphoramidothioate)
分子式(分子量)	: C ₂ H ₈ NO ₂ PS (141.125)
CAS番号:	: 10265-92-6
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	: 化審法- 安衛法-
分類に寄与する不純物及び安定化添加	: データなし
濃度又は濃度範囲	: 1

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

直ちに医師に連絡すること。

多量の水と石鹼で洗うこと。

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。

目に入った場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

消火水は汚染を引き起こすおそれがある。

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

近傍での喫煙、火花や火炎の禁止。

全ての着火源を取り除く。

密閉された場所に立入る前に換気する。

風上に留まる。

関係者以外の立入りを禁止する。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

作業者は適切な保護具(『8.ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

回収・中和

漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化方法・機材

データなし

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

眼、皮膚との接触を避けること。

環境への放出を避けること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

飲み込まないこと。

保管

技術的対策

データなし

混触危険物質

データなし

保管条件

容器を密閉して冷乾所にて保存すること。

施錠して保管すること。

容器包装材料

国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会(2007年版)

未設定

ACGIH(2007年版)

未設定

設備対策

作業場には防爆タイプの全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	固体(結晶)
色	無色
臭い	データなし
pH	データなし
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
-0.66: ICSC (Access on Sep.2008)	
1E+006 mg/L at 20°C: PhysProp (Access on Sep.2008)	
1.3 ICSC (Access on Sep.2008)	
データなし	

データなし

0.002Pa at 20°C: ICSC (Access on Sep.2008)

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

44°C: ICSC (Access on Sep.2008)

融点・凝固点

44°C: ICSC (Access on Sep.2008)

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

データなし

自然発火温度

データなし

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

0.002Pa at 20°C: ICSC (Access on Sep.2008)

蒸気密度

データなし

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

1.3 ICSC (Access on Sep.2008)

溶解度

1E+006 mg/L at 20°C: PhysProp (Access on Sep.2008)

オクタノール・水分配係数

-0.66: ICSC (Access on Sep.2008)

分解温度

データなし

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

危険有害反応可能性

化学的危険性:加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物、イオウ酸化物、リン酸化物を含む有毒で刺激性のヒュームを生じる。軟鋼や銅を含む合金(工業用)を侵す。

避けるべき条件

データなし

混触危険物質

データなし

危険有害な分解生成物

データなし

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットを用いた経口投与試験のLD50 21mg/kg (PATTY (4th, 2000))、16mg/kg (PATTY (4th, 1999))のうち低い値 16mg/kgから区分2とした

経皮

ウサギを用いた経皮投与試験のLD50 118mg/kg (PATTY (4th, 2000))から区分2とした

吸入

吸入(粉じん): ラットを用いた吸入ばく露試験のLC50(粉じん・4時間) 0.162 mg/L (RTECS (2006))に基づき、区分2とした。

吸入(蒸気): データなし

吸入(ガス): GHSの定義による固体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。

皮膚腐食性・刺激性

24時間試験であるが、IUCLID (2000)より、ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、「刺激性はみられなかった」ことから、区分外とした

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギを用いた眼刺激性試験のデータ (IUCLID (2000)) より、「軽度の刺激性がみられた」ことから、区分2Bとした

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし

皮膚感作性:データ不足のため分類できない

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

データ不足のため分類できない

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50=0.026ppm(AQUIRE、2003)から、区分1とした。

水生環境慢性有害性

急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いと推定されるものの(log Kow=-0.8(PHYSPROP Database、2005))、急速分解性がないと推定される(BIOWIN)ことから、区分1とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

IMOの規定に従う。

航空規制情報

ICAO/IATAの規定に従う。

UNNo.

2783

ProperShippingName.

Organophosphorus pesticide, solid, toxic

Class

航空法の規制に従う。

(注意:純度に応じて複数UN No.あり)

6.1

国内規制

陸上規制情報

指定なし。

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

特別安全対策

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

移送時にイエローカードの保持が必要。

緊急時応急措置指針番号

152

15. 適用法令

海洋汚染防止法

個品運送P(施行規則第30条の2の3、国土交通省告示)

船舶安全法

毒物類・毒物

航空法

毒物類・毒物

港則法

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

参考文献

【14】 Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

【13】 IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【12】 IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【11】 HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【10】 有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【9】 ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【8】 eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>

pageID=0&request_locale=en

【7】 ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【6】 ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【5】 カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【4】 NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP) <https://www.nite.go.jp/>

【3】 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【2】 化学物質審査規制法 (化審法) <https://www.env.go.jp>

【1】 労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。